

## 令和7年横須賀市戦争犠牲者を慰め平和を祈念する集い

### 横須賀市長式辞

本日、ご遺族をはじめ、多くのご来賓の皆様のご参列を賜り、令和7年横須賀市戦争犠牲者を慰め平和を祈念する集いを執り行うにあたり、謹んで式辞を申し述べます。

今ここに、安らかに鎮まる戦争犠牲者の諸靈は、祖国の安寧を願い、愛する人や家族を案じつても、厳しく激しい戦場で戦禍に倒れ、尊い命を犠牲にされた御靈であります。

この式典が行われる度、征きて還らぬ人々を思い起こされ、往時に想いを馳せる方も多いことと存じます。

先の大戦の終結から、はや80年の歳月が流れました。80年前、多くの命が犠牲となった未曾有の戦禍が終わり、深い悲しみと喪失の中から、我が国は新たな歩みを始めました。

そして、本年は昭和で換算しますと「昭和100年」という節目の年でもあります。

昭和は戦争、混乱、そして復興、発展と、他に類を見ない正に怒濤の時代であり、戦没者の方々、またそのご遺族の皆様が辛い現実と向き合い、乗り越えてきた歴史の積み重ね、そのものであります。

この間、横須賀においても、戦後の連合国軍による占領や、浦賀、久里浜地区への引揚げなど幾多もの苦難に見舞われましたが、それらすべてを乗り越え、今日まで多くの先達たちの知恵と努力と尽力により、目覚ましい発展を遂げてまいりました。

このような今日の平和と繁栄の礎は、紛れもなく戦争犠牲者の諸靈とそのご遺族の御蔭であります。

改めまして、謹んで深く尊敬と感謝の意を表しますとともに、これまでの皆様のご尽力に重ねて心から御礼を申し上げる次第です。

戦争終結から長い年月が流れ、日本国民の多くが先の大戦を経験していない時代となりましたが、世界に目を向けてみると、各地で紛争が続き、今この時にも多くの罪なき人々が悲惨な戦争の惨禍に苛まれています。

今年は昭和100年、そして戦後80年という二つの大きな節目を迎えます。改めて私たちは戦争の悲惨さ、そして平和の尊さを決して忘れないように、過去の歴史と教訓を先達たちから引き継ぎ、世代を超えて確実に未来に伝えていくという現代を生きる私たちが担う、尊い御靈に対する大きな責任を果たしていかなければならぬと思っています。

そのためこの集いでは、戦中・戦後をご経験されたご遺族の方々をはじめ、一般の方々にもご参列いただくとともに、今年は平成、令和を生きている高校生に加え、新たに小学生の皆さんにも参加をいたしております。

併せて第2部において、東京大空襲をテーマとした落語の特別公演を行います。

直接、戦争体験を伺う機会が減っていく中で、若い世代が戦争を知る人から話を聞き、経験していない時代に触れ、今日享受している平和が当たり前のものではないということを考える貴重な機会になれば幸いです。

また、昨年の8月15日には、平和中央公園にある戦没者慰靈塔で、小・中学生を中心としたガールスカウトの皆さんにご参加いただき、献花式を行いました。

次の世代を担う若者達と、過去の戦災を振り返り、平和の尊さを再認識するとともに、お互いを認め合い慈しみ合いながら、支え合うことができる社会となるよう、今後も発信を続けてまいります所存です。

私自身、政治家を志したのはニューギニア戦線を経験した父の姿を目の当たりにし、そこで受けた凄惨な過去を絶対に繰り返してはならないという強い想いからであります。

本日、ご列席の皆様の中にも同じような経験をなさった方もいらっしゃるかもしれません。

平和は当たり前にあるものではなく、私たち一人一人が努力し、守り続けていかねばならない  
尊いものであります。

改めまして本日、戦後80年の式典にあたり、戦後から今日までの歳月の重みを深く理解すると  
ともに、平和への取り組みの強い決意を新たにしています。

今後も恒久平和の確立のため、皆様と力を合わせて、引き続き全身全霊を尽くしていくことを  
ここにお誓いいたします。

結びとなりますが、安らかに鎮まる戦争犠牲者諸靈に重ねて衷心より追悼の意を表するととも  
に、ご遺族並びにご参列の皆様のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げまして、私からの式辞  
といたします。

令和7年5月18日

横須賀市長 上地 克明